

# 1. 評価結果概要表

作成日平成20年11月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771700832		
法人名	社会福祉法人豊中福祉会		
事業所名	グループホームとよなか		
所在地	香川県三豊市豊中町笹田竹田697-1 (電話)0875-56-6260		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価決定日	平成20年11月18日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームとよなかは創設以来、利用者一人ひとりの日々の暮らしが家庭と同じように、あたりまえにできることを目標にし、管理者と職員が努力を重ねてきた。その成果が実り、利用者が能力に合った生活を送りつづけることができ、利用者のほとんどが活発で明るく元気である。食事の準備や清掃などの役割分担や楽しみごとが充実し、利用者の生活の機能低下防止につながり、利用者の動きが感じられる施設である。地域にも密着し運営推進会議委員との連携もよく、行事などにも積極的な参加を得ている。介護記録、各種マニュアル、諸帳簿すべて分かりやすく整理できている。家庭との連携、報告なども丁寧である。職員の頑張りを感じられ、5年を経過し理想的なグループホームにつくり上げられている。職員交替などがあったとしても、今の状態を維持できるよう期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

### 【情報提供票より】(20年9月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)	15年4月28日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計 18人
職員数	14人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.6人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部:
------	-------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	2,000+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6名	要介護2	7名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84歳	最低	71歳	最高	97歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	香川井下病院 大塚歯科医院
---------	---------------

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>同業者との交流や重度化、終末期の方針の統一などの改善課題があったが、前向きに取り組み、重度化(車椅子)に関する指針の文書化もできている。また、家族にも事前にアンケート調査をしたり、確認をしてもらう取り組みもできている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は毎年職員個々に取り組み、全体で話し合いをし記入しているようだが、今回は職員異動などがあり十分ではない点も見られた。自己評価は個々の処遇を見直す機会と捉えて丁寧に取り組むことが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は地域の代表のかたが多く参加し、いつも活発な意見交換が行われている。運営推進委員の方の協力で、防火避難訓練に地域住民の方5名が参加してくれ地域密着の実践ができている。施設側も一日レストランやもちつき大会を開催するなど住民の方との交流に努力が見られる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族に対しては、月1回の状況報告シートによる報告と月2回の電話での報告を徹底して行っている。また、家族会や面会時に情報交換もできているので、家族の意見や苦情は把握できている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>食事のための買い物、病院、美容院なども地域の店を利用している。地域の店もグループホームの方々を大事に受け入れ、地域の中での生活ができている。自治会長、老人会会長、民生委員の方々の積極的な協力を得て、グループホームが地域に根ざして行く様々な実践ができている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づき、そこからグループホーム独自の地域に密着できる理念をつくり、みんなに分かりやすく廊下に掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に唱和し、理念に基づいたケアができているか日々振り返りながら実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方からの誘いを受けて地域活動の井手さらいに参加するなど新しい取り組みも増えている。一日レストランやもちつきなど、地域の方と一緒に独自の行事が定着している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受け改善にも意欲的に取り組んでいる。今回の自己評価は、職員異動もあり十分に取組んでいないところも見られた。	○	職員一人ひとりが処遇を見直したり、新人職員はグループホームの介護の基本のあり方を学ぶ機会と捉え、自己評価に丁寧に取組むことが望まれる。
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、参加者との活発な意見交換が行われている。開催日も地域の方から希望が出るなど、運営推進委員の積極的な取り組みがうかがえる。会議での討議や、推進委員の方の誘いで防火訓練に地域の方が参加したり、職員が地域に出向き、井手さらいなどに参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらったり、必要に応じて出向いていくなどの取り組みはできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末に連絡シートによる詳しい報告をしている。また、月2回の電話での状況報告などが担当者により丁寧に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第3日曜日に家族会があり、家族の出席率も高く、そこでも意見や情報交換ができている。家族会での日帰りバス旅行も実施されており、意見を反映し家族との関係も良く取られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職が続き、その都度家族に説明するなど利用者に配慮はしているが、利用者や家族は、職員の異動には敏感である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の勉強会を月1回行うなど内部研修も充実し、外部研修で実践発表をするなど職員は積極的である。職員会議やカンファレンスなども時間外勤務となることも多く、職員に負担増となっている。	○	職員の離職が多いことや、職員の勤務体制などハードになり過ぎている点を鑑み、院内研修のあり方を整理し、職員の気持ちを把握したり、フォローできる仕組みをつくり、職員が育ち定着するような取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会に参加し、意見交換などして同業者との交流や現状を知ることができたようである。今後も積極的な交流が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、相談や見学を含め家族や利用者が納得できるようゆつくりと進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、料理、裁縫、農作業など利用者のこれまでの経験を生かし、職員が教えてもらえる機会をつくっている。毎日のコミュニケーションの中で互いが支えあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握し、家族にも伝え協力してもらう努力をしている。家を見てみたいという方には個別処遇で対応した例もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族との日々のかかわりの中で意見を聞き、職員間ではカンファレンスを通して、実情に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護経過記録が丁寧に書かれ、分かりやすい。それらを基に3か月ごとの見直しや、実情の変化に対応した見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の付き添い、美容院や買い物など一人ひとりに必要な支援を個別に行う姿勢が見られる。状況に応じて柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、家族も受診に同行するよう働きかけ、適切な医療が受けられる支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化(車椅子)対応の指針を作成し、職員間で共通理解し、家族にも説明し、同意の署名・捺印を取っている。終末期に関しては関連病院や家族との話し合いにより、今後の課題である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけ、日々実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況を把握し、今日はどうしたいかを会話の中からさりげなくキャッチし、できるだけ希望に沿うような暮らしを支えている。全員で行う体操や清掃も無理なく生活の中に入っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立も季節や希望に応じながら、買出しから、調理の片づけまで、利用者と職員と一緒にやって行い、食事にまつわるいろいろなことを楽しみながら取り組んでいる。このことが利用者の元気につながっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの習慣や希望に沿う入浴支援が行われている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で出番があり、その仕事を楽しんでいる。自分の役割があることが利用者を生き生きとさせ、グループホーム全体に活気がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の散歩や買出しなどは日常的に行われている。個別の希望にもできるだけ沿っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員みんなの意識が高く、鍵をかけない、見守りによる処遇ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員の働きかけで、近隣の地域住民5名の参加による防火訓練が行われた。また、防火訓練の様子や反省の話し合いも行われている。地域の方の積極的な協力を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事もほとんどの方が、食べ残すこともなく、水分も自由に取れるよう配慮している。栄養摂取や水分摂取の記録もあり十分確保できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られ、採光も程よく、何よりも入居者の元気な話し声や動く音がある居場所づくりができています。食事後、利用者と職員が一斉に清掃に取り組み清潔も保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の物も持ち込み、一人ひとり好みの部屋づくりができています。また、程よく整理整頓できていて居心地のいい居室となっている。		